
「ロボット支援下肺葉切除術と胸腔鏡下肺葉切除術における術後疼痛管理の実態」に関するお知らせ

このたび、当院で肺葉切除術を行った患者さんの情報を用いた以下の研究を実施いたします。本研究は、【埼玉医科大学国際医療センター臨床研究 IRB】の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。

本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

1. 研究の対象となる方

2022年12月1日から2024年5月31日の期間に【埼玉医科大学国際医療センター】を受診し、肺がんと診断され、手術を実施した患者さんを対象としております。

2. 研究の目的

当院における胸腔鏡下肺葉切除術後の患者さんは、手術後の痛みの緩和を目的として硬膜外麻酔や自己調節鎮痛法を使用しています。しかし、2022年12月から導入されたロボット支援下肺葉切除術の手術後においては、硬膜外麻酔や自己調節鎮痛法を使用せず、頓用の鎮痛剤のみで痛みの緩和をはかっている場合もあります。ロボット支援下手術は胸腔鏡下手術と比べると、出血が少なく低侵襲で安全な手術であるとの報告がされています。このことから低侵襲なロボット支援下手術では胸腔鏡下手術と比較すると手術後の痛みも少ないのではないかと考えました。今回の研究ではロボット支援下肺葉切除術と胸腔鏡下肺葉切除術での痛みの違い・程度を知ること、手術後の患者さんの痛みを緩和し、より良い看護ケアを提供することを目的としています。

3. 研究期間

病院長の許可後～2025年7月31日

4. 利用または提供の開始予定日

研究実施許可後から、約1か月程度

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる試料・情報について

1. 試料・情報の内容

電子カルテより、患者背景(年齢、性別、疾患名、術式、身長、体重)、手術後1,2,4,6,12時間後のNRS(痛みの程度)、使用した鎮痛薬の内容、鎮痛薬の使用頻度、硬膜外麻酔・自己調節鎮痛法の組成内容、ロボット支援下手術での硬膜外麻酔・自己調節鎮痛法の有無、胸腔鏡下手術での硬膜外麻酔・自己調節鎮痛法の有無を評価項目として使用します。

この研究で得られた患者さんの情報は、【埼玉医科大学国際医療センター】において、研究責任者である曾根 こそえが、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

2. 試料・情報の取得方法

肺がんと診断された患者さんの手術後の診療記録を用います。

3. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

- ・埼玉医科大学国際医療センター D棟4階 HCU 看護師 曾根 こそえ
- ・埼玉医科大学国際医療センター D棟4階 HCU 看護師 澁谷 理彩
- ・埼玉医科大学国際医療センター D棟4階 HCU 主任 滝本 杏奈
- ・埼玉医科大学国際医療センター D棟4階 HCU 師長 土屋 儀志子
- ・埼玉医科大学国際医療センター 呼吸器外科 診療部長・准教授 二反田 博之

4. 試料・情報の管理責任者

当院単独の研究かつ検査・解析等もすべて自機関で行う（国内の外注検査等を除く）場合

【埼玉医科大学国際医療センター】 病院長 佐伯俊昭

お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

- ・ご希望があれば、他の患者さんの個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲で、研究計画書や研究の方法に関する資料を閲覧することができますので、以下の連絡先までご連絡ください。

埼玉医科大学国際医療センター D棟4階 HCU 曾根こそえ

住所：〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1

電話：042-984-4432（土日祝日を除く 8：30～17：30）

メールアドレス：ki3981@5931.saitama-med.ac.jp

○研究課題名：ロボット支援下肺葉切除術と胸腔鏡下肺葉切除術における術後疼痛管理の実態

○研究責任者：埼玉医科大学国際医療センター D棟4階 HCU 曾根 こそえ